

N. パン裂きと礼拝

旧約時代には、多くの形式や儀式があった。これらの多くは将来来られるキリストの予告であったため、キリストが来られた時に「予告」は「実現」し、その役割は終えられた。新約聖書時代には「式」として定められているものは、2 つしかなく、バプテスマ式とパン裂き(聖餐式)である。

1. パン裂き(聖餐式)の目的

「わたしを_____、これを行いなさい」(1 コリント 11:25・23～26 を読みましょう)

《参考》私の記念としてこれを行ないなさい(新共同訳)

主は、過ぎ越しの食事の時に、そこにあるパンと杯、それぞれについて、「これはわたしのからだです」「これはわたしの血による新しい契約です」と言われ、パン裂きを定められました。過ぎ越しの食事は、出エジプトの時以来 1400 年以上に渡り、エジプトの奴隷状態からの救いを記念して続けられてきましたが、同時に、将来キリストが来られて罪と死からの永遠の救いを与えられることを予告する、預言的儀式でもありました。キリストの死と復活を境に、パンと杯は、出エジプトの記念とキリストの予告から、キリストの完成された御業を記念する式となりました。これがパン裂き(聖餐式)です。

(1)パンで覚えるべきこと：神である方が人となられたこと、特にその死(ピリピ 2:6～9)

①天地創造をされた神である方が、人間になり、この世に来てくださったこと

②キリストの地上での生涯(そのすばらしさ、なされたみわざ、特に十字架での贖いの死)

(2)杯で覚えるべきこと：キリストの流した血によって結ばれた新しい契約

主が最後の晩餐で言われた「新しい契約」は、エレミヤ書にあらかじめ預言されており(エレミヤ 31:31～34)、主イエスが実現し、ヘブル 10:15～19(下記)の中で説明されている

15 聖霊もまた、私たちに証しておられます。というのも、

16 「それらの日の後、わたしが、彼らと結ぼうとしている契約は、こうである。——主のことは——

17 A わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す。」と言った後で、

「B わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない。」と言われるからです。

18 罪と不法が赦される場所では、もう罪のきよめのささげ物はいりません。

19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

①この契約は、救いの完全さを保証する契約である。

〔契約内容 1〕 私たちの地上の生涯における全ての罪の赦しの保証……上の B

〔契約内容 2〕 新しい命(➡G. 1)の完全な聖さの保証……上の A

(「律法が思いに書き記されている」=「自分の思いが神の律法そのもの」⇔新しい命の性質)

②この契約は永遠の契約である。(ヘブル 13:20)

パン裂き礼拝に出席しましょう

時間：

持ち物：

当日の心構え：